



渥美半島の古道

—海の道・陸の道—

現在、渥美半島の大動脈は、国道259号や42号、臨海道路、鉄道など「陸の道」が主役です。しかし、臨海工業地域は重要港湾・三河港の一翼を担い、旅客の定期便が発着する伊良湖港や漁業を支える各所の漁港など、「海の玄関」も健在です。「道」は人や物だけでなく、文化や情報を運ぶ生命線です。高速道路へのアクセス時間短縮やフェリー存続問題など、身近な「道」の課題についても、私たちは考えていかなければなりません。



◆三河港大橋と田原湾（三河港）

現在、渥美半島の陸の玄関口となっている三河港大橋。臨海工業地域には60社を超える企業が進出し、産出額日本一の農業とともに、田原市の屋台骨を支えています。物流は主に道路が活用されていますが、ここから運搬船で海外へ自動車輸出されるなど、今でも「海の道」は重要な役割を果たしています。



◆伊良湖港

「海の道」と「陸の道」を結ぶ交通の要衝。港だけでなく道の駅クリスタルポルトもあります。(④昭和40年ごろの伊良湖岬⑤現在の伊良湖港)

まぼろしの「田原街道」 鉄道延伸計画

渥美半島への鉄道敷設が計画されたのは明治時代。大正13年から順次開通し、一時は黒川原（大久保町）まで運行されていました。福江を通り、中山や堀切までの延伸も計画され、一部の路盤工事も完了していました。しかし、第二次世界大戦の影響で工事は止まり、三河田原～黒川原間のレールも、資材転用のため撤去されてしまいました。その後も、鉄道は延伸されることなく、現在は三河田原～新豊橋間のみが運行されています。



●かつてはこの先にもレールが延びていた(三河田原駅)



●今も国道259号沿いで見られる鉄道敷の遺構(写真中央の左右に伸びる・石神町)

◆ケーブルテレビ版「古道特集」をインターネットで

今回の特集の動画を見ることができます。文人や歌人にスポットを当てています。<http://www.city.tahara.aichi.jp/> →左側の「市政テレビ番組」から

参考文献

『田原町史』『赤羽根町史』『渥美町史』『広報たはら』『愛知県歴史の道調査報告書—田原街道・伊勢街道—』『渥美町郷土資料館特別展 古道』

道しるべ